

札幌大学女子短期大学部開設 40周年記念号刊行にあたって

眞瀬勝康

札幌大学女子短期大学部部长

札幌大学女子短期大学部は、平成20年に開設40周年を迎えるにあたり、記念事業として地域に開かれた祝賀会、講演会と、紀要記念号の発行を決定した。昨年9月には女子短期大学部卒業生、道内有力企業の代表者、高等学校及び地域の関係者を招いて盛大に記念祝賀会を開催した。10月には著名な映画監督崔洋一氏をお招きし、特別講演会「北海道の映画作り」を開催した。講演会には女子短期大学経営学科と交流のある「むかわ町」高齢者の皆さんもお招きし、学生とともに崔監督の講演を聴いた。本記念号は開設40周年記念事業の掉尾を飾るものである。

女子短期大学部は昭和43年、英文科と国文科で発足し、昭和57年には文化学科と経営学科（経営管理専攻及び秘書専攻）を増設した。増設された経営学科は、女子学生が学ぶ北海道内における唯一のビジネス系学科であった。昭和61年からは女子短期大学部の全学科において臨時定員増を実施し、女子学生の向学心向上に積極的に応えた。4学科からなる札幌大学女子短期大学部は、900余人の女子学生を擁する北海道を代表する有力短期大学となった。

女子短期大学部は、平成初頭に最盛期を迎えたが、18歳人口の減少と女子学生の4年制大学指向によって女子短期大学離れが加速するものと想定し、平成9年には、国文学科と文化学科の改組転換により、札幌大学に文化学部の新設を行った。これに伴い、女子短期大学部文化学科の募集を停止し、翌年には同国文学科の募集を停止した。

女子短期大学部は英文学科と経営学科の2学科体制となり、両学科は大幅なカリキュラム変更を行い、新短期大学作りに努力しつつ、さらなる改組発展（4年制への移行）に向けた取り組みを行った。しか

し近年の18歳人口の急激な減少とともに女子短期大学の改組転換は困難となり、4年制学部への改組転換は中断することになった。18歳人口の減少と女子学生の短大離れがより加速化する中で、英文学科は入学定員を減少させ、また経営学科秘書専攻の不振が顕著となり、平成18年には、同専攻の募集を停止した。経営学科では、秘書専攻の募集停止にともない、大幅なカリキュラムの見直しを行い、ビジネスへの意欲喚起型導入教育とビジネス系資格取得に特化したカリキュラム改編を行った。英文・経営両学科では実学を重視したカリキュラムのもと、学科到達目標の設定により中期的な女子短期大学の存続発展に努力することになった。

経営学科では、平成18年度から札幌の有力企業経営者の協力を得て、市内ビジネス活動の実際を勉強する地域教育を始めた。この教育を受けた学生からは、口々に楽しい、面白いとの好評を得た。この教育が狙いとする、学生の学習への意欲を喚起させることができ、中退者がゼロになるという大きな成果を上げることができた。また地域有力企業と交流するなかで、企業の高い志に深く学ぶことができた。たとえば、ある企業は札幌をスイーツの街にする、またある企業はススキノ活性化を通して札幌、ひいては北海道を元気にするという志であった。

英文学科も、平成20年度から地域への取り組みとして、小学校での英語授業を援助するという実践的活動を始めている。地域、企業と一緒に作って作り上げる教育を通して、本学が全国のモデルとなるような教育成果をあげ、札幌活性化の一翼を担い、本道発展に貢献できるよう全力をあげたいと考えている。

本記念号には、かつて女子短期大学部に在籍した教員にも論文を寄稿していただき、多忙な中、記念号刊行に協力をいただいた。また、女子短期大学部開設40周年記念事業にご協力いただいた地域、企業、同窓生、教職員の方々に大きな感謝と敬意を表したい。

現在、女子短期大学部を取り巻く状況は非常に厳しいが、地域の中で教育を展開、実践することにより、この困難な時代を突破していき

たい。そして10年後の開設50周年には、女子短期大学部の教育が大きな成果を上げるべく教職員一同努力して行く所存である。これまで私どもを支えていただいた皆様には、一層のご鞭撻、ご厚情をお願いして結びとしたい。

2009年3月8日